



茨城県立石岡第二高等学校
チャレンジ・プロジェクト

令和6年度 県立学校等チャレンジ・プロジェクト

筑翠ルネサンス NEXT STAGE 探究成果報告書

2024

筑翠ルネサンス

「筑翠ルネサンス」とは、「石岡第二
高校の伝統を復活・再生させ、新しい
時代に対応する教育を創造すること」

チャレンジ・プロジェクト

茨城県では、各学校が校長のリーダーシップの下、「社会
に開かれた教育課程」の充実を図りながら、探究的・協働
的な学びとともに、それらを担う学校組織マネジメントの
向上にチャレンジすることにより、育てたい生徒像の具現
化を図る「県立高校等チャレンジ・プロジェクト」の取組
を行っている。



目次

- 校長挨拶 3
- 事業概要 4
- 事業報告 5
- 探究活動の特色 6
- 第1学年の探究 8
- 第2学年の探究 10
- 第3学年の探究 12
- 生活デザイン科×探究 14
- 進路×探究 15
- 地域×探究 16



WELCOME

校長挨拶



校長 鈴木 教生

「筑翠ルネサンスNext Stage」開幕！

本校は、茨城県教育委員会事業「県立高等学校等チャレンジ・プロジェクト」において、令和3年度から地域魅力化型重点校に指定され、「筑翠ルネサンス」と銘打った特色ある活動に取り組んできました。

「筑翠ルネサンス」はそもそも、地域に根差す伝統校としての強みを生かし、新しい時代の教育を創造することを目標に、平成27年度に始まった事業です。その名称は、本校の同窓会である「筑翠同窓会」に由来しています。

筑翠ルネサンスの大きな特徴は、自治体や企業、NPO、大学や専門学校などの外部機関と連携・協力し、多彩な体験活動を通じたキャリア教育を推進する点にあります。令和3年度からチャレンジ・プロジェクトとして実施するに当たり、体験活動を軸とした従来の取組に加えて、「探究的な学び」のコンセプトを導入し、さらに発展的な形で展開しています。

OECD（経済協力開発機構）は、『ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030』において、「エージェンシー（agency）」をこれからの教育の中核概念として提唱しています。これは、「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力」を指します。「探究的な学び」を重視する本校の姿勢は、変化の激しい現代社会において、ただ指示に従うだけの学びではなく、自分で課題を見つけ解決していく能力が必要であるというOECDの方向性と一致しているとも言えます。

今年度（令和6年度）は、本校にとって重点校指定4年目の年でした。令和3年度から令和5年度まで3年の間にはコロナ禍もあり、授業や学校行事が制限される中、探究学習や体験活動が十分に実施できない時期もありました。その一方で、ICTの活用等、状況を踏まえた研究・開発も進みました。この期間中に得た経験や知見を基盤に、今年度からは「筑翠ルネサンス Next Stage」として新たな段階に進化し、さらに深い学びと実践を目指して取り組んでいます。

今回の報告書は、事業の成果をまとめ、学校としての課題解決の取組を継承するとともに、地域との連携強化を目的とする新規事業として発刊されるものであり、その記念すべき第1号となります。

本校は、これからも地域との連携を深め、地域課題の発見・解決を目指して生徒たちが主体的に行動し、多くの人々と協働しながら新しい価値の創造に挑戦する力を育む学校であり続けたいと考えています。これまでの関係各位の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年度 事業概要

本校の「筑翠ルネサンス Next Stage」の事業区分は「地域魅力化型」です。地域社会を力強く支える人材を育成するために、「考える力」「行動する力」「伝える力」の3つの力を生徒に身につけさせることを目標に掲げています。本事業は全8分野の事業から構成されています。

- A. 講演会などを通じて探究スキルを学ぶ「探究スキル向上プログラム事業」
- B. フィールドワークを通じて地域の課題解決と魅力の向上に取り組む「地域理解プログラム事業」
- C. 成果を地域に発信する「地域連携事業」
- D. 「グローバル」視点から地域の伝統文化を学ぶ「伝統文化体験」
- E. 多文化共生を目指す「国際交流事業」
- F. 生活産業にかかわるプロを育成するための「生活デザイン科の学びを深める体験学習事業」
- G.アントレプレナーシップを養うとともに、自分の将来のあり方について考える「キャリアデザイン推進事業」
- H. 生徒を支援する教員の資質向上を目指す「学びのスタイル改革事業」

これらの事業を通じて社会に開かれた教育課程を実現し、地域を愛し、地域の魅力を高める人材を育成しています。



令和6年度 事業報告

■実績

事業実施率 全8分野34事業中 31事業を実施 **実施率91%**
予算消化率 令和6年度予算 320万円 **消化率100%**

■評価

○学校評価アンケート「探究」に関する質問事項への肯定的評価割合の向上

「総合的な探究の時間に積極的に取り組んでいる」

R5 81.8% → **R6 85.7%**

「探究活動で地域や社会の課題に目が向くようになった」

R5 56.7% → **R6 62.2%**

○生徒感想

地域の大人と関わる機会が増えて、自分たちでは考えつかない新しい視点を持った。/探究学習を通して「地域の課題」に気がついて、「より良いまちづくり」を考える機会が増えた。/自分たちの意見に大人が真剣に耳を傾けてくれて「高校生にもできることがあるんだ」と自信がついた。

○講師感想

今回、講師という立場で参加させて頂きましたが、私自身にとっても良い経験となりました。自分が高校生だった頃を振り返ると、こういった「地域社会」に目を向けて課題に取り組むといった授業は無かったと記憶しております。生徒自らが主体性を持って地域の問題を提起し、仲間と共に最善の手法を考えて行動に移す。この経験は、教科書に書いてあることを勉強しているのとは違った、貴重な経験であると思います。

■成果

○探究を軸とした「立体的な学び」の創造

➡生徒が「地域 - 学校」「先輩 - 後輩」「過去 - 未来」の軸の中で学ぶ八面体構造

今年度の大きな成果は、過去3年間の蓄積を背景として「立体的な学び」を実現できたことです。つまり、先輩から後輩への事業継承が行われることで、1年で完結しない、奥行きを持った探究学習を行うことが可能になっています。生徒たちは、「地域 - 学校」「先輩 - 後輩」「過去 - 未来」の軸を自由に行き来しながら、自ら学びを深めています。

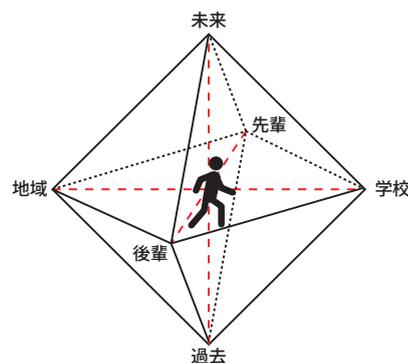
■祝！ 本校が文部科学大臣表彰を受賞しました！

○第17回（令和6年度）キャリア教育優良校

次の観点において、本校の顕著な功績が認められ、今回の受賞となりました。

- 生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、地域・産業界等との連携・協力を主体的に図り、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。
- 主体的に課題を発見していく力や創造性を育むため、出店体験や新商品の開発体験、事業アイデアの検討などの取組を積極的に行っている。
- 地元企業や自治体等と連携し、地域課題の解決に取り組むなど、生徒の地元への理解・愛着・誇りを育み、地域を担う人材を育成するための教育を積極的に取り入れている。

石岡二高がこれまで取り組んできた教育活動が高い評価を受けたことを大変うれしく思います。これからも本校は、生徒の成長のため、保護者や地域の皆様とともに力を尽くしていきます。



探究活動の 特色

石岡二高の探究活動は、石岡市役所や石岡市教育委員会、近隣教育機関や地元企業などの地域人材と密接に連携し、地域を学びのフィールドとして地域課題の発見と解決に取り組む点に特徴があります。生徒たちは、探究的・協働的な学びと多彩な体験学習を通じて、「考える力」「行動する力」「伝える力」の3つの力を養い、自分の将来について考えを深めていきます。

■石岡二高探究学習の「これまで」と「これから」



■「総合的な探究の時間」の3年間

第1学年

探究の基本的技能を身につけ、自分の興味を掘り下げる。

知る

1

第1学年のテーマは「知る」です。
第1学年の探究学習では個人探究を通じて、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった、探究の基本的な作法について学んでいきます。個人探究活動を通じて、自分の興味を掘り下げる、つまり自分自身について「知る」ことが目標です。同時に、伝統文化体験など地域の魅力を「知る」様々な体験活動にも取り組んでいきます。

第2学年

自分の興味と社会の課題を結びつけて探究する。

結ぶ

2

第2学年のテーマは「結ぶ」です。
1年間を通じて地域社会と自分を結びつけて探究する活動を行います。地域の課題を解決し、魅力を高めるための課題設定を行い、地域に飛び出して現地調査を行います。後期はさらにフィールドワークを重ね、自分たちの探究の成果を発表します。
探究を通じて、①自分と地域社会を「結びつける」こと、②現在の自分と将来の自分を「結びつける」ことが目標です。

第3学年

探究を通じて学んだことを社会に発信する。

伝える

3

第3学年のテーマは「伝える」です。
前期は2年間の探究活動を通じて気づいた自分の興味や得意を進路実現に向けて「伝える」トレーニングをしていきます。
後期は、探究してきた地域の魅力と課題について、動画や論文などにまとめ、発信します。
自分や地域の魅力を積極的に「伝える」ことが目標です。

総合的な探究の時間 主なイベント



講演会や 体験学習

石岡の魅力を実感

石岡市の持つ歴史・文化や自然といった観光資源、移住者を引きつける地域の魅力について考える。

探究の日

全学年が探究に取り組む

外部から多くの講師を招いて、探究学習について深く掘り下げる。

フィールド ワーク

地域に飛び出そう!

教室では体験することのできない学びを。実際に地域社会に飛び出して学びを深める。

探究成果 発表会

探究の成果を発信する

探究の時間では人に「伝える」力も身につけられる。動画コンテストにもチャレンジ。

特集「探究の日」

全学年が1日をかけて一斉に探究学習に取り組む本校独自の行事です。

『週刊教育資料』（教育公論社）の2025年1月20日号にも紹介されました。

時限	1年	2年	3年
	地域の魅力を知る	地域の課題に取り組む	地域の魅力を発信する
1	「探究の日」開会式		
2	全体講演 探究学習の意義を考える講演会		
3	【アントレプレナーシップ講演会 (起業家講話)】	【地域探究の魅力を知る講演会】 【探究スキルを学ぶワークショップ】	【地域の魅力を発信する動画作成講座】
4			
5・6	探究活動	探究活動	探究活動

第1学年では、地域社会の第一線で活躍する人物を講師に招き、「起業家講話」が行われました。起業家の講話を通じて、地域の魅力と地域が抱える社会的課題について理解することで、生徒の課題発見につなげるのが狙いです。5・6時間目は振り返りを行い、「自分が起業するなら?」というテーマで将来について考えました。生徒が自分の『やりたいこと』や『将来』について考えを深め、『学ぶことの意味』を再確認できた講演となりました。

生徒の感想

- 自分の得意なことを仕事にすることで目標も立てやすいし誰かのために頑張っているのもとてもいいなと思った。
- 自分は絵を描くのが好きなのでイラストレーターやグラフィックデザイナー、普通のデザイナーも良いかなと思っていましたが、もし起業するとしたら、あえて苦しい運動に着目して運動が少しでも好きになれるような会社を作りたいと思うようになりました。



第2学年では、地域で活躍されている方々を講師に招いて、「地域探究の魅力を知る講演会」と「探究スキルを学ぶワークショップ」を実施しました。ワークショップでは、現在の探究活動の状況を発表しました。フィールドワークに行き、新たな課題や行き詰まり感を持っている生徒にとって、講師の方々からのアドバイスは新たな方向性を示してくれ、不安を払拭してくれました。

生徒の感想

- 間違ったらすぐやり直せばいいので、何事もまずは“やってみる”が大切なので、迷ったらとりあえずやってみる!と仰っていた。テーマに迷った時は深掘り、横展開で、圧倒的な1番を見つけテーマ決める。いい作品ができると、すぐ真似されるので、真似されないような工夫とブランディングが大切!!



第3学年では、映像制作分野で活躍されている方々を講師に招いて「地域の魅力を発信する動画作成講座」を実施しました。動画作成・応募のための技術や発信するのに必要な知識を学ぶワークショップを通じて、動画制作におけるコツや工夫を学ぶことが出来ました。

生徒の感想

- とても充実した時間になった。動画や写真を撮る上で大切なこと、大事なことを教えてもらい、今後の動画作成に活かせる様々なことを教えていただいた。今日のことを活かせるような動画を作りたい。
- 様々な講師から色んな視点の貴重な体験談などを聞いて、これからの動画制作だけでなく、自分の人生の見方も変わった。



第1学年の探究

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	探究の基本的技能の習得と地域理解・自己理解（個人探究）										
	オリエンテーション	課題設定	課題計画立案	朝日里山体験 (地域理解)	探究の日 (進路探究)	課題再設定 情報収集① 整理・分析①	情報収集② 整理・分析②	まとめ・表現 発表準備	発表準備 発表会 予選	探究成果 発表会	振り返り

個人探究について

第1学年では、自分の興味・関心を掘り下げて、個人探究を行います。まずは個人探究を通じて「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究のプロセスを理解し、それらを活用できる力を養います。また、本校では、生徒が日常生活の中で積極的に課題発見ができるような環境づくりに力を入れています。何気ない日常から生み出される「やってみようかな」という気持ちを大切に、それらを丁寧に支援することで、生徒一人一人の自己肯定感を育んできました。1年生では、2年生以降に行う地域探究にスムーズに移行できるよう、一歩踏み出す力をつけることを最大の目的としています。

音楽を聞いて気分が変化する理由

1年1組 36番
藤原菜



1 テーマ

音楽を聞いて、
気分が変わるのはなぜか

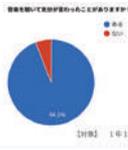


3 実態調査

- 人の気分が変わるきっかけ
石岡市図書館
- 音楽が与える影響
土浦市図書館
- 音楽を聞いて気分が変わる人の割合
アンケート

3 アンケート

多くの人が、音楽を聴いて気分の変化を感じたことがあると回答している



【調査】 8/21～9/30
219票 1年1組

6 評価と反省

- 今後の課題
活動の種類ごとの準備を知りたい。
今後詳しく調べたい。
- 興味についての自己評価
調査しなかったことを遺憾でまて良かった。
今後にも活用せると思った。

個人探究発表

2月4日（火）本校多目的ホールにて、個人探究発表会を行いました。これは、身の回りの課題を探究テーマとして設定し、1年間を通して取り組んできた個人探究の成果を発表するものです。発表会の前には、グループ単位、クラス単位で発表と選抜を行い、各クラス2名の代表者を決定しました。発表テーマは以下の通りです。

なぜガールスカウトを知っている人が少ないのだろうか



「なぜ人によって笑い方がちがうのか」

1年6組(40) 吉田 淳生



どうしたら料理がもっと上手くなるんだろう

石岡第二高等学校
1年3組(10) 小塚啓俊



「なぜ黒板は緑なのに黒という字を使っているのだろうか」

石岡第二高等学校
1年3組(18) 小田創平ほか



令和5年 探究レポート報告

第拾伍話
都と田舎

障害の度合いや級、手当てなどはどんな設定基準で決められているのだろうか

カントリーマームはいつ消滅するのか

1年4組39番 和田花音



「親しみやすい人になるにはどうすればいいのか」

一年二組 峯 彩月

どの時間帯にあくびが多く出るのか

石岡第二高等学校
1年2組58番 渡辺翔希

テーマ
衣服ロス



No.	テーマ
①	なぜガールスカウトを知っている人が少ないのだろうか
②	なぜ人によって笑い方がちがうのか
③	どうしたら料理がもっと上手くなるんだろう
④	なぜ黒板は緑なのに黒という字を使っているのだろうか
⑤	都と田舎

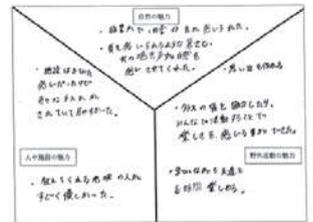
No.	テーマ
⑥	障害の度合いや級、手当てなどはどんな設定基準で決められているのだろうか
⑦	カントリーマームはいつ消滅するのか
⑧	親しみやすい人になるにはどうすればいいのか
⑨	どの時間帯にあくびが多く出るのか
⑩	衣服ロス

どの発表も素晴らしい発表ばかりでした。発表する生徒は一生懸命取り組み、発表を聞く側の生徒も熱心に聞き入る様子が見られました。



■朝日里山体験

「石岡市の地域資源を知る体験学習」事業の一環として第1学年の生徒全員が石岡市八郷地区にある朝日里山学校で野外活動体験を行いました。生徒たちは朝日里山学校のスタッフの方のご指導を受けながら、ジャガイモの収穫やピザづくり、餅つきなどを体験し、石岡市の自然の持つ魅力を発見しました。事後学習では、実際に朝日里山学校で感じた魅力と、魅力を活かしていく方法について、シンキング・ツールを用いてまとめる作業を行いました。



■伝統文化体験（校内）



伝統文化体験（校内）の目的は、石岡のお囃子をはじめとする伝統芸能を体験することで、自らの国や郷土で継承されてきた伝統文化についての理解を深め、尊重する態度を身につけることです。また、異なる文化や歴史に敬意を払い、これらに立脚する人々と共存する国際的感覚を養うことも目的としています。石岡市役所・石岡市文化協会と連携し、様々な伝統文化を体験することができました。

■伝統文化体験（校外）

川越着物着付け体験・浅草飴細工体験・武州藍染体験・高崎だるま絵付け体験・益子焼絵付けの5コースに分かれました。

スケジュール

- 11月14日（木）事前指導（第1回）
- 11月19日（火）事前指導（第2回）
- 11月20日（水）体験当日
- 11月21日（木）事後指導（第1回）
- 11月26日（火）事後指導（第2回）

以上計4回にわたり、「体験活動を通じて茨城・日本の文化の魅力を学ぶ」、「探究のテーマ設定や将来の進路選択に活かす」ことを学びました。事後指導（第2回）では、Googleサイトを用いて各コースの体験内容を発表し合い、共有しました。



第2学年の探究

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年	地域の魅力発見と課題解決に取り組む（グループ別探究）										
	オリエンテーション	探究テーマ設定 講演会	課題設定	フィールドワーク I 計画立案	フィールドワーク I (現地調査1回目) 探究の日 (中間発表)	課題再設定 情報収集②	フィールドワーク II 計画立案	フィールドワーク II (現地調査2回目) 整理・分析	情報収集 整理分析 まとめ・表現	まとめ・表現 発表準備	まとめ・表現 発表準備

地域探究について

第2学年では「石岡の魅力を高める」ことをテーマに、地域の課題を解決し、地域の魅力を高める探究学習を行っています。第1学年では、生徒個人の興味・関心をもとにテーマを決め、個人探究をしてきましたが、第2学年では、個人の興味・関心を地域の課題と結びつけ、グループで地域探究を行っています。「どうしたら地域をよりよくできるだろうか」ということを念頭に、地域で働く方にフィールドワークで実際にお話を聞きながら、インターネットで調べてもわからないリアルな情報を収集し、課題解決にむけて活動しています。この活動を後輩へつなげるためにも、第3学年の6月に行われる探究成果発表会へ向けて日々活動しています。

■主なテーマ

テーマ
猪肉を使ったメニューを開発して農作物の被害を減らそう！
石岡市の特産品を使ったラーメンを作りたい！
VTuberで石岡をPRしよう！
ロスフラワーを活用して地域貢献をしよう！
酒粕パックを作ろう

テーマ
石岡オリジナルスイーツ「いしおかサンド」を広めよう！
地域猫と野良犬のボランティア活動を若者たちに広めたい
石岡タローのグッズを作ろう！
石岡オリジナルボードゲームを開発しよう。

■活動の様子



■活動の一例

2025年2月6日(木)「いしおかサンド」を給食に出したい、という思いで活動を続けてきた班が八郷中でPR活動を行いました。2年生の松永さんたちの班は、まちかど情報センターや市の給食センター、市内菓子店などに出向き、「いしおかサンド」を給食に出せないか、プロジェクトをすすめてきました。しかし、「いしおかサンド」の給食への提供には栄養価・コスト・衛生面・ブランド保護の観点から大きな壁が。一旦は無理かと思われた「いしおかサンド」の提供でしたが、生徒たちの熱い思いに心動かされた八郷中学校の栄養教諭のご協力で、まずは給食に「いしおかサンド」をモチーフとした「フルーツサンド」を提供することに。この機会に、中学生に向けて「いしおかサンド」をPRしようと、給食の時間にお邪魔してきました。



■地域探究の魅力を知る講演会

4月23日（火）に「イバラッパー」としても有名な茨城県まちづくりアドバイザーの青木智也様を講師として招き、地域について探究する意義と課題の見つけ方についてご講演いただきました。



生徒の感想



今まではみんなが好きなものや知っているものが良いと思っていたけど自分なりの1番を決めるのもいいなと思いました。当たり前も一人ひとり違うから自分の好きを活かしたいと思いました！まずは身近な範囲から始めたいと思いました!!



地域の良さを見つけるにあたって、1番とビリを探し、意外な物や当たり前な物に着目するといいなだということが分かった。また、発想が大事で幅広く考えすぎてもみんなが楽しめない、ある程度狭くして、見せ方を変えることが大切だと分かりました。

■石岡市のまちづくりについて学ぶ講演会

5月14日（火）に石岡市政策企画課の方を講師に招き、石岡市の現状と課題・魅力についてご講演いただきました。地域探究に向けた課題設定を行うために地域課題を調べている生徒にとっては、インターネットでは得ることが難しい情報を知ることができました。



■フィールドワーク（9月実施）

自分たちで立てたテーマと仮説をもとに、研究対象の現地を訪れ、校内だけでは得ることができない情報を直接現地で集めることを目的にフィールドワークを実施しました。現地に行くことで、有意義な情報を得られ、課題だと思っていたことが課題ではなかったなど、多くの気づきが得られました。



■フィールドワーク（12月実施）

9月のフィールドワーク後にスライドを作成し、中間発表を行いました（探究の日）。中間発表での指摘や気づきをもとに、探究の方向性を見直し新しいフィールドワークへ行きました。

今後は、3年生の6月に行われる探究成果発表会へ向けての準備になります。



■高大連携ワークショップへの参加

石岡市では、令和2年3月に閉館した石岡市民会館に代わる施設として新たな文化施設の整備を検討しています。この新市民ホールに若い世代の意見を反映させるため、市内の高校生が参加するワークショップが筑波大・麗澤大との高大連携事業として8月に開催されました。本校の2年生も参加し、大学生のファシリテートのもとで、他校の生徒と積極的に意見交換を行いました。さらに、代表の生徒たちが11月に筑波大学の高大連携シンポジウムと、石岡市主催のシンポジウムで意見を発表し、高い評価を得ました。特に、石岡市主催のシンポジウムでは、本校の村山紗里奈さんと立見恒陽さんが市内高校生の代表としてパネルディスカッションに参加し、石岡市独自のボードゲームを通じた地域の活性化などを提案しました。



第3学年の探究

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月
3年	探究成果発表会に向けた準備			進路探究	コンテスト応募動画作成（地域の魅力を動画で発信）				
	オリエンテーション	探究成果発表会	探究成果発表会	コース別進路探究 小論文対策 面接練習	探究の日	企画書作成 フィールドワーク 計画立案	フィールドワーク 計画立案 フィールドワーク (現地取材)	フィールドワーク (現地取材) 動画編集	動画発表会 振り返り

探究成果発表会

「総合的な探究の時間」の集大成として、6月4日（火）に探究成果発表会を実施しました。

3年生は1・2年生に向けて発表を行いました。第Ⅰ部では代表班によるステージ発表、第Ⅱ部では各班によるポスターセッションを行いました。各班が地域の魅力や課題について一生懸命調査したことを後輩に伝えていました。1・2年生も先輩の話に熱心に聞き、今後探究活動に対してより意欲的に取り組むきっかけとなりました。また地域が抱える課題を知り、自分事として捉える生徒もいました。

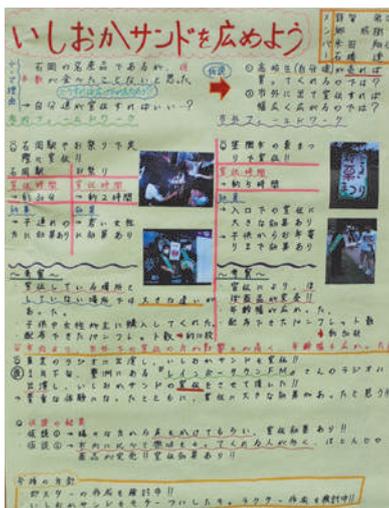
来賓の方からも「この取り組みは地域の方や行政に知ってもらった方がよい。」「若い世代に石岡に興味を持ってもらえば、石岡の活性化につながる。」と高い評価を頂きました。

■全体発表の様子と発表テーマ



テーマ
石岡市の特産物を使った家庭で簡単レシピ
いしおかサンドを広めよう
石岡のVTuberをつくり、PRしよう
捨てられた花で化粧品を作る
石岡市のスクールカウンセラーの利用をもっと気軽に

■ポスターセッションの様子とポスター



■進路探究

6月から進路に関して書類作成、面接練習などを行いました。各生徒が卒業後の希望進路実現に向けて熱心に取り組みました。3学年の教員のみならず、学校全体で指導・サポートしました。

■フィールドワーク

11月中旬から12月にかけて、フィールドワークを実施しました。石岡市をはじめ、周辺地域の施設、店舗にご協力頂き、インタビューや動画撮影等を行いました。実際に現地を訪れ、地域の方々にお話を聞いたことでより深い学びに繋がりました。ご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。

■動画発表会

1月14日（火）に代表動画発表会を行いました。各班が調査した内容を動画にまとめ、石岡市の魅力を伝えました。動画は生徒が工夫を凝らし、見やすくまとめられていて、メッセージ性の高いものが多くありました。優秀作品は「茨城の魅力を探究し発信する高校生コンテスト」（通称：「いばたん」）に応募しました。VTuber班が作成した動画が本選に通過し、2月15日（土）水戸内原イオンモール内の映画館で動画が上映されました。結果、「自治体特別賞」を受賞し、賞金2万円と石岡のイチゴを獲得しました。この動画作成や発表会を通じて、地域の魅力発信に貢献することが出来ました。



受賞の様子

■代表班の動画

「石岡駅を盛り上げよう」「石岡サンドをPRしよう」「SNSを通して石岡の魅力を伝える」

「石岡のリンゴ」「石岡のお祭りについて知ろう」「石岡の伝統を広めよう」

「疲れた心を自然で癒やす」「フラワーパークで癒やしを得る」

「ISHIOKA ～ TOURIST SPOTS ～ 2024ver」 「石岡の神社・寺のPR動画」 「石岡市の自然」



生活デザイン科×探究

本校は、普通科と生活デザイン科の学科併置校です。豊かな生活をコーディネートする生活デザイン科では、生活産業に関わるプロフェッショナルを育成するために試行錯誤をともなう探究的な学習を積極的に取り入れています。

■課題研究

生活産業に関する課題の発見・解決に取り組むことができるよう、主体的かつ協働的な学習を行っています。

情報コース : ビジネス文書実務検定の資格取得を通して技術の向上を目指します。また、よりよいプレゼンテーションの仕方について探究します。

着付けコース : 訪問着や振り袖等、和服の着付けや礼法について探究します。

食物コース : 地域の食材について探究します。また、各種コンテストに挑戦し、技術の向上を目指します。

被服コース : 各自がデザインしたデザイン画にもとづき、それらを形にしていく手段を探究していきます。



■専門家による講座

「生活デザイン科の学びを深める体験学習事業」では、衣食住・保育・福祉など生活産業にかかわるプロフェッショナルを育成するために、第一線で活躍する専門家を招いて多彩な体験学習を行っています。これにより、教室の中だけでは触れることのできない「本物」に触れる機会を多く提供しています。



カービング講習会



ウォーキング講習会

■食に関する地域資源を知る体験学習

イトウ製菓株式会社第二工場と、茨城乳業株式会社を見学しました。ロングセラー商品の誕生秘話や、美味しい商品を生み出すための企業努力について知ることができました。



本校では、この5年は毎年、国公立大学合格者が出ています。今年度、茨城大学農学部合格した生徒は、探究のフィールドワークで大学を訪問したことが進路決定の決め手となりました。このほかにも、高校で探究学習を頑張ったことが多くの生徒の進路実現につながっています。合格者の声をご紹介します。



清水良奈さん

長野大学 社会福祉学部 社会福祉学科 合格

■探究テーマ「スクールカウンセラーの利用をもっと気軽に」

探究テーマは「スクールカウンセラーの利用をもっと気軽に」です。2年次に近隣の中学校を複数訪問し、スクールカウンセラーの①利用の現状②教員との関わり③子供への対応を調査し、校内でも意識調査を実施しました。大学入試の面接で詳細な調査内容を話せたことが進路実現に役立ちました。探究活動を通じ、情報を収集したり、取捨選択したりする力が身につく、将来にも活かせると感じました。探究テーマに悩んでいる人は、自身の進路に直結したテーマ設定をするといいかもかもしれません。進学後も探究の学びを活かし、スクールカウンセラーを目指します！



吉川姫那さん

茨城キリスト教大学 看護学部 看護学科 合格

■探究テーマ「看護にどのような「遊び」の要素を取り入れているのか」

探究テーマは「看護にどのような「遊び」の要素を取り入れているのか」です。特別支援学校やこども園、病院を訪問し、人との関わり方や遊びの効果、年齢に応じた対応について学びました。特に小児科では、医師から直接話を聞き、患者との接し方や工夫点を知ることができました。大学入試の面接では、探究活動について話す機会があり、特別支援学校での学びを伝えることができました。今後は高校で学んだことを大学で行う母性や小児の実習に繋げていきたいです。将来は看護師として情報発信していきたいです。



E.Kさん

大妻女子大学 文学部 日本文学科 合格

■探究テーマ「常陸娘子と藤原宇合の恋愛模様は如何に？」

探究テーマは「常陸娘子と藤原宇合の恋愛模様は如何に？」です。石岡市の万葉歌碑に刻まれた和歌の背景を探り、作者の常陸娘子と藤原宇合との関係を考察しました。調査のため、石岡ふるさと歴史館を3回訪問し、文献や資料も活用して当時の常陸国の文化や社会について考察しました。総合型選抜の受験では、探究活動を通じて古典文学への関心が深まったことを志望理由としました。私は国語科教員を目指しているので、面接時に「どのような先生になりたいか」と質問されました。その際に、探究活動を通じて学んだことを思い出し、「身近な」ところから日本語や歴史、文化を学ぶ楽しさを伝えられるようになりたい。」と答える事が出来ました。

■ ドリーム・パス事業

昨年に続き2年連続の戦略チームに選ばれ、今年度も『みんなが知っている味噌をもっと身近にプロジェクト～石岡二高から味噌のおいしさを広めちゃおう!～』の企画名で、味噌の需要拡大とイメージ向上を狙い、地元の池田屋菓子舗さんと小倉味噌店さんと協力しながら商品開発を続けています。今年度は、新たにシャンティ洋菓子店さんが加わり新商品を生み出しました。5月にはイオンモール土浦にて、10月には文化祭、11月には石岡ふれあいまつり（柿岡）、12月には東京・銀座にある茨城県のアンテナショップであるIBARAKIsenseにて味噌のPRと開発品の販売を行いました。これからも石岡市の名産品である「味噌」の魅力発信に力を入れていきます。



■ VTuber プロジェクト

石岡の魅力を発信するためにVTuberを開発した3年生の班が、石岡市及びまちづくり市民会議と協力して「シン・いばらきメシ」石岡市代表の「いしおかサンド」のPR動画を作成しました。動画の完成を記念して、まちかど情報センターに等身大パネルを設置していただきました。この活動に触発された2年生が事業を継承し、外国人にも情報発信できるように英語で話す新キャラクターを開発。それを「石岡市子ども会議」の場で、市内小中学生に発表しました。



■ 猪突猛進！イノシシ肉活用プロジェクト

3年生の探究成果発表会で「石岡市の特産品を使ったラーメン」のアイデアを聞いた2年生たち。3年生はアイデアを考えただけで終わってしまっていたのですが、今年の2年生は猟友会にフィールドワークで突撃。イノシシによる農作物被害の現状をインタビューし、解体の現場を見学させていただきました。猟友会のご厚意でイノシシを1頭丸ごと頂いて、ラーメンを作る班と、ハンバーガーを作る班が試作を繰り返しました。そして、猟友会・市役所・観光協会・地元商店を招いて12月に試食会を開催しました。今後、商品化に向けて、試食会でいただいたアドバイスをもとに更なる改善を進めていきます。

